

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

学校名		鳥栖市立鳥栖西中学校	
1 前年度 評価結果の概要	学校教育目標「西中一心～夢の根っこを育てる～」のもと、確かな「学び」、豊かな「心」、健やかな「体」を鍛え、教師集団の「組織力」を磨き、生徒を取り巻く「環境」を整えるように学校運営を行った。校内研究では、県の指定を受け全教科・全領域において「活用力」を高める学習指導の工夫・改善に二年間に渡って取り組み、実践してきた。また、その成果を授業公開という形で発表することができた。保護者アンケートからは、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価をいただいた。また、教職員はチーム一丸となって学校教育目標や重点目標の実現に向けて取り組むことができている。生徒指導や学習指導においても共通理解のもと実践ができたものと理解している。次年度は、課題となっている特別支援教育の推進体制づくりと教員の専門性や指導力の向上のために校内研修の充実を努めていきたい。また、生徒の基礎学力向上、活用力向上のため授業研究会や校内研修を通して授業改善をさらに推進していくつもりである。		
2 学校教育目標	西中一心～夢の根っこを育てる～ ・それぞれの生徒の「夢」を実現させるための「根っこ」を育てる教育を、全校一丸となって推進する。 ・それぞれの生徒が、自分と他人を大切に、お互いに認め合い・高めあって、ともに成長できる学校を作る		
3 本年度の重点目標	① 生徒の心を耕す生徒指導体制の充実 ② 自ら学ぶ力の育成		
4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全ての教科で共通した取組や各教科での個別の取組を明らかにし、学期毎に目標数値の達成を目指す。 ・学習規律の確立とともに、支持的風土の醸成と学び合う集団づくりを展開する。
	○生徒の基礎学力や「活用力」の向上	○12月実施の県学習状況調査において、5教科すべてにおいて昨年度の正答率を上回る。また、活用力の問題においてもすべての教科で昨年度の正答率を上回る。	・全職員が参加する授業研究会や個別に授業を参観することを通して、授業構成の見直しや共通実践を進める。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を推進し、すべての生徒に達成感を味わわせる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○1年生は音楽鑑賞や絵付け体験、2年生は職場体験、3年生は保育園訪問を位置づけ、全校一斉読み聞かせや、外部人材の活用や交流を通して、自分が成長していると回答する生徒を90%以上。	・体験活動や奉仕活動を通して自己を見つめ直し、心の変化に気づかせる指導を充実させる。 ・活動や体験の様子を地域や保護者に情報発信する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○人権・同和教育に関する取組の充実	○いじめ防止等(いじめの防止等のための取組、事案対応等)について、関係職員や担任・保護者と連携した組織的対応ができていると回答した教員を100%。 ○「西中人権・同和教育たより」を毎学期発行し、生徒の活動の様子を保護者に伝える。	・月1回、生活・いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見と組織的対応に努める。 ・生徒指導委員会や連絡会を通して、事案についての情報を共有し、一貫した指導を行う。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。
	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると回答する生徒を85%以上。	・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・先輩や先人の事例を通して、自らの夢や目標の実現に向けての過程を思い描くことができる。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒93%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・保健体育の学習で、運動の効果と行い方を学び、生活の中に運動を取り入れる場面を考える機会を設ける。 ・技術・家庭や保健体育など関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけた指導に努め、食事の大切さを再認識させる。 ・交通安全教室等を実施し、啓発に努める。
	○自分の健康や体作りについて意識を高め、生き活きと部活動等に取り組む	○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒を75パーセント以上にする。	・部活動の顧問を複数体制とし、臨場指導に努める。 ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、学校だより等で周知する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務分掌の役割分担を徹底させ、チームで効率よく仕事ができる環境整備を進める。 ・定時退勤日の6時閉庁の完全実施と平日でも目標とする閉庁時間を設定し、遵守するように意識化を図る。
	○教職員の資質向上と教職員集団の組織力の構築	○各ライフステージに応じて、職員がペアやチームを組んで、互いに「学び」、「育てる」意識で教育活動ができる教師を85%以上にする。	・校務分掌や学校行事等でベテラン、中堅、若手教師でチームを組み、互いに教育技術を伝承し合いながら資質向上を図り、教職員集団の組織力を高める。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・教科「日本語」の授業参観を全学級で年1回実施する。 ・長期休業中に校区内の小中学校で合同研修会を実施する。
○特別支援教育の充実	○特別支援教育部会の定例化と教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと、関係職員を中心として特別教育部会を週1回開催。 ○特別支援に関する専門性が向上した教員を80%以上	・部会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や具体的な対応に関する協議を行う。 ・講師を招き、個々のケースについて全職員で校内研修を実施する。
○生徒指導の充実	○生徒支援体制の充実と不登校対策の推進	○警察や児童相談所との連絡を、最低月に1回以上行い、さらにSSWや福祉方面との情報共有を密に行う。 ○教育相談、別室における学校生活支援員を中心に、「つなぐ」「働きかける」をキーワードに不登校の生徒や家庭に働きかける。	・原則、毎週生徒指導委員会と全職員参加の連絡会を開き、生徒や家庭に関する情報共有、そして複数の職員での対応を徹底する。 ・「電話連絡」や「担任+1の家庭訪問」「別室登校」など本人・保護者と話をする機会を積極的ににつくり、チームで対応する。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。
●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	.		